

お問い合わせ

日本宗教学研究諸学会連合

jfssr20084@gmail.com

日本学術会議 哲学委員会シンポジウム

主催：日本学術会議哲学委員会

共催：日本哲学系諸学会連合・日本宗教学研究諸学会連合

グローバル人文学の 可能性と課題

日時：平成26年12月6日（土）

13：30～17：00

司会

野家 啓一（日本学術会議連携会員、東北大学総長特命教授）

開会挨拶

岡田 真美子（日本学術会議第一部会員、哲学委員会副委員長、中村元記念館東洋思想文化研究所研究員）

パネリスト

西村 清和（日本学術会議第一部会員、國學院大学文学部教授）

「人文社会系学術研究成果の海外発信」

後藤 和子（摂南大学経済学部教授）

「デジタル文化資源ネットワークの現状と課題—変容するライブラリー・ミュージアム・アーカイヴの役割」

チャールズ ミュラー（東京大学大学院人文社会系研究科教授）

「北米の比較思想的仏教研究の特徴—“見”（視点）という仏教語の扱いを手がかりとして」

林 永強（東京大学大学院総合文化研究科特任准教授）

「アカデミック・ディシプリンとしての日本哲学—その可能性と問題性」

コメンテーター

下田 正弘（日本学術会議連携会員、東京大学大学院人文社会系研究科教授）

上原 麻有子（京都大学大学院文学研究科教授）

閉会挨拶

藤原 聖子（日本学術会議第一部会員、東京大学大学院人文社会系研究科准教授）

予約不要
入場無料

会場：日本学術会議講堂

東京都港区六本木 7-22-34



日本の学術のグローバル化（国際交流、国際発信）を考えると、自然科学分野に比べて、人文社会科学分野が著しく立ち遅れていることは否めない。そこには「言語の壁」が立ちだかつており、翻訳を進め相互理解を深めるに際しては、各地域の文化や文明が形作るコンテクストが見えないハードルとなっているからである。

本シンポジウムでは、ナショナリズムとコスモポリタニズムの対立などグローバル化にまつわる理念的問題を論ずるとともに、国際発信のための具体的方策（英語を中心とした「翻訳センター」の設立）を提案することによって、未来形の人文社会科学を考える貴重な機会としたい。

